

好奇心のトビラ通信

建築編

いつもお世話になっております。公設塾minetoです。毎週水曜日に行われている好奇心のトビラ授業の様子を、テーマごとにお送りしていきます！今回は「建築編」での学びや塾生の様子をお届けします。

CONTACT

美祢市公設塾mineto

Tel 0837-53-0311

kousetsujuku.mineto@gmail.com

建築編の授業内容

建築技術と設計に込められた想いについて探求しました！

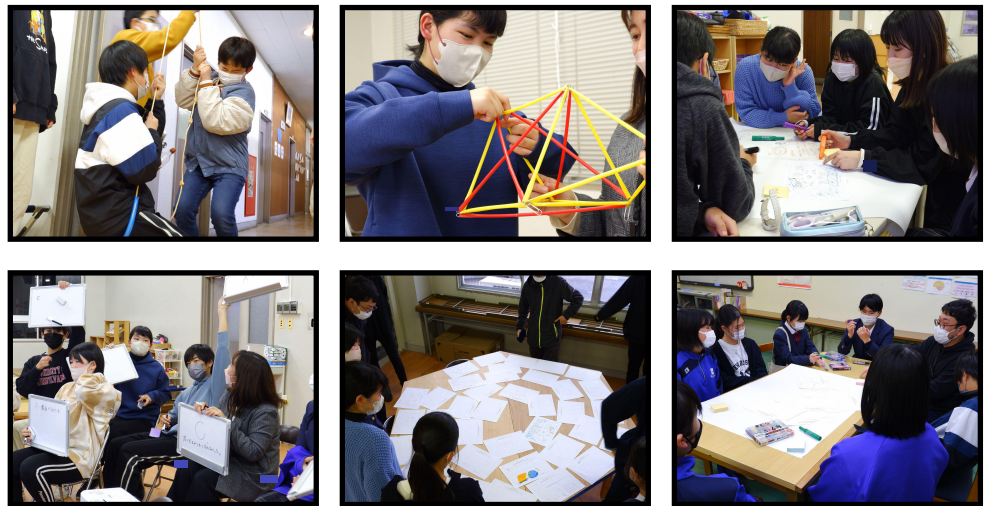
毎週水曜日の好奇心のトビラ授業では、言葉編に引き続き、「建築編」を実施しました。

第1回授業では、「なぜ人は高い建物を建てるのか」という謎に迫っていきました。古代のピラミッド、中世の大聖堂、近代の摩天楼と、時代によって高い建物を建てる理由が変わっていくことを知りました。また、エレベーターの原理である「動滑車」を用いて、紐1本で人間を持ち上げる実験を実施。技術の進化とその原理を身をもって体験しました。

第2回授業では、東京タワーを題材に、前代未聞の命懸けの建設作業と設計を担った耐震建築の父である「内藤多仲」の人生に迫っていきました。また、ストローとゼムクリップのみを使って、内藤多仲が発明した「筋交い」の技術を用いた構造模型を製作。その重要性を体感しました！

第3回授業では、今まで学んだ内容を踏まえ、新しい学校を設計するワークを実施。前回の授業で扱った技術を取り入れたり、エレベーターを入れることでバリアフリーに配慮した設計をしたりと様々なアイデアが出ました。後半は、東京スカイツリーの設計を担当した吉野茂さんが、設計に込めた「まちづくり」の“想い”について学びました。「まちや人をつなぎ、変化を起こしてきた」ことが、スカイツリーがまちのシンボルである理由であるということを知り、「技術力×想い」の重要性を考えていきました。

「動滑車」や「筋交い」といった技術について、実際に手を動かし、体験しながら学んでいきました！



“人生の達人”の回は、ものづくりを通してまちづくりを行う、VIVISTOP YAMAGUCHIの金子春香さん、YCAMの山岡大地さんをお呼びしました。この授業では、「minetoをもっとこうしたい！」という想いを、どうしたら形にできるかを考えていきました。普段何気なく使っているminetoをよく観察して、アイデアを書き出し、実現するためにはどんなものが必要になるのか、どう工夫したら実現できるかを考えていきました。金子さん、山岡さんからは、minetoのコンセプトを踏まえて考えること、自分だけではなく他の人も楽しめる工夫をすることなど、アイデアを実現させるために大切な要素を伝えていただきました。

気づき/学び

塾生が授業後に書いた感想を一部抜粋

「人間が一番しか覚えていない」という言葉が印象に残った。人間は未知のものを探求しようとする気持ちがあることがわかった。こんな高い建物をどうやって建てているのか気になった。



minetoを観察したら、新しい発見があった。実現できるかどうかよりも、まずは叶えたいという気持ちがあればいいと思った。



東京タワーは、作ろうと思った1年後に完成したことに驚いた。実験してみて、筋交いがあることによって支えが強くなることがよくわかった。



自分の想いを実現させるために、まずはやってみよう！という勢いが大事だと思った。また、メリット・デメリットを考えることも大切。



“そり”と“むくり”というものを初めて知った。伝統的なもの作りを大事にすることは大切だと思った。



想いだけでは実現できないから、技術力も必要になるんだとわかった。自分が思う「こうなってほしい」ということを、どうしたら実現できるのかをもっと考えてみたい。



次回のテーマ

◎次のテーマは「医療編」

怪我をしたり、病気になったり、それらを予防したりするとき、現代では当たり前になることのできる「医療」。しかし、こういった行為を行うのはヒトだけです。どうしてヒトは「医療」を発達させることができたのか、その歴史を紐解いていきます。また、医療の発展が行き着く先にはどんな未来が待っているのか、探求していきます！

